

3月のモロッコの政治情勢等を、当地報道を中心に以下のとおりまとめました。要人往来については末尾の一覧表をご覧ください。

なお、当政治月報は当月中にメディアで多く取り上げられた話題をその都度記録したもので、これらニュースについての当館及び日本政府の立場を何ら反映するものではありません。

【主な出来事】

- ◎ ファビウス仏外相のモロッコ訪問(3月9日)
- ◎ 組織犯罪取締専門機関の発足(3月20日)
- ◎ アブドゥッラー2世・ヨルダン国王のモロッコ訪問(3月23日)

<内政・政局>

1 選挙関連法案に関する野党の審議拒否

(1) 野党4党(注)は9日、地域圏組織法案の審議が予定されていた内務・地方自治・住宅・都市政策委員会(常任委員会の1つ)への出席を拒否した。同委員長(野党PI)は最終的に流会を決めた。

(注: イスティクル党(PI)、真正と現代党(PAM)、人民勢力社会主義同盟(UFSP)、立憲同盟(UC))

(2) 野党4党は、地域圏の境界変更は選挙区割に影響するにもかかわらず、同組織法案や選挙日程に関する政令等の選挙関連規定を、政府・与党が一方的に、野党との協議なしに策定していると批判している。

(3) 野党側は以前には、中央選挙委員会(注: 内務・法務両大臣が委員長を務め、各政治勢力が参加)の構成を不公正と批判して(注: 法務大臣が与党PJD所属のため)、同委員会への参加を拒否していた。

野党4党は、与党が野党との対話を尊重しない場合には選挙をボイコットすることもあり得るとしている。

2 妊娠中絶を巡る議論

(1) 16日、モハメッド6世国王は、トゥフィック永代財産・イスラム宗教大臣、ラミッド司法・自由権大臣、エル・ヤザミ国家人権評議会議長に対して、非合法に行われている妊娠中絶を巡る問題について国民対話を実施し、解決方法を探るように指示した。

(2) モロッコでは妊娠中絶は法律で禁止されているが、実際には非合法的に行われていると

される。人権団体や一部の医師は、女性の健康・安全の観点から、条件付きで妊娠中絶を認めることを求めている。

(3) 2月には、妊娠中絶合法化に向けて運動してきたシュライビ ラバト・オランジェ大学病院産婦人科長が、フランスのテレビ局の妊娠中絶に関する取材を受け入れた後、同科長職を突然解かれたことがきっかけで、妊娠中絶を巡る議論が各方面から提起されるようになっていた。

3 新たな組織犯罪取締専門機関の発足とテログループの大規模摘発

(1) 22日、内務省は、ISILの名において政治家や軍人を標的としたテロ攻撃を準備していたテログループの大規模な摘発を行ったと発表した。

(2) 内務省の発表によれば、今回の摘発は近年で最も大規模なものであり、アガディール、タルーダント、マラケシュ、ブジャード、ティフレット、タンジェ、アイン・ハルーダ(大カサブランカ地域圏内)、ラユーン(西サハラ地域の主要都市)の各地で実施された。

(3) 逮捕を実行した中央司法捜査局(Bureau Central des Investigations Judiciaires : BCIJ)はその直前の20日に国土監視総局(DGST)内に新たに創設された、テロ・誘拐、薬物犯罪、組織犯罪等を専門的に取り扱う機関。

4 モロッコ企業総同盟(CGEM)による南部地域投資計画

(1) 28日、CGEMは西サハラ域内ラユーンで南部地域投資フォーラムを開催し、南部地域(西サハラ)への投資計画を発表した。

(2) 南部地域の経済活性化のため、計42億DHの投資が計画され、それによって1万人の直接雇用が創出される予定。うち27億DHは不動産・建設・観光分野に投じられ、中でもAddoha 社(モロッコ、建設業)の案件が19億DHを占める。ラユーン地域およびダクラ地域に投資の大半が向けられる。

(3) 同時に、CGEM、職業訓練雇用促進公社(OFPPT)、マイクロソフト・モロッコ、若年支援NPO、Phosboucraa 財団(リン鉱石公社(OCP)グループ)の間で、無料の若年層向け職業訓練に関する合意が締結された。

<外交・国際関係>

5 ファビウス仏外相のモロッコ訪問

(1) 9日から10日まで、ファビウス仏外相がモロッコを実務訪問した。ファビウス外相は滞在中、モハメッド6世国王謁見、ベンキラン首相表敬、メズアール外務・協力大臣との会談、ブーサイド経済・財政大臣との会談、エルアラミ商工業・投資・デジタル経済大臣との会談を行った。

(2) 一連の会談で両国関係者は、両国が外交上の困難を乗り越えたことを歓迎し、両国間関係を一層強固にしていくことを確認した。

(3) ファビウス外相は、今次訪問が両国の友好関係の再開・強化・更新のための訪問であり、政治・経済・文化・社会等の分野で友好関係を強化する意思を確認できたとし、同時に、両国共通関心事項における両者の見解の一致を歓迎した。

6 アブドゥッラー2世・ヨルダン国王のモロッコ訪問

(1) 10日から12日まで、アブドゥッラー2世・ヨルダン国王およびラニア王妃がモロッコを訪問した。モハメッド6世国王の招待による公式実務訪問。11日に歓迎式典が行われ、モハメッド6世との会談、ベンキラン首相による謁見、タルビ・アラミ衆議院議長による謁見が行われた。

(2) 両国とも対ISIL有志連合に参加しており、イスラム過激主義との闘いの経験を有している。両国王は、理性的で寛容なイスラムの教えを広めることで過激なイスラム教思想に対抗することが重要であると強調した。

(3) 両国王はパレスチナ、イラク、リビア、イエメン等の情勢についても意見交換した。

(4) 西サハラ問題についてアブドゥッラー2世国王は、モロッコの領土一体性を支持し、モロッコによる自治権付与提案が交渉による解決の土台であると述べた。

7 第25回クランス・モンタナ・フォーラムのダクラでの開催

(1) 12日から14日まで、西サハラ域内の主要都市ダクラで、スイスのNGOクランス・モンタナ・フォーラム主催の国際フォーラムが開催された。今回のテーマは、アフリカ、地域協力・南南協力。

(2) アフリカ連合(AU)は、西サハラ地域の帰属問題が未解決であることから、ダクラでの開催を批判し、招待された各国に欠席するよう求めていた。

(3) 報道によると、国外からは約110か国、約600名の出席があり、国家元首、政府の長、閣僚も含まれていた。欧州からは、サパテロ元スペイン首相、ド・ヴィルパン元フランス首相・外相、ボルロー元フランス環境・持続的成長大臣の出席があり、ドゥスト＝ブラジ国連事務次長(元フランス外相・保健相)は個人の資格で出席したとされる。

8 サウジアラビア主導によるイエメン空爆への参加

(1) 26日、外務・協力省は声明により、政治、情報、兵站及び軍事面において、イエメンの正統性を支持するための有志連合にあらゆる形態の支援を行うことを決定した、と発表した。

(2) 同声明は、UAEに駐留するモロッコ空軍機を、イエメンを危機から脱出させるために有志連合に参加させることも含む、としている。

<モロッコ要人の外国訪問>

日付	国	氏名・肩書き	目的
3月2日	セネガル	メズアール外務・協力大臣、ブーサイド経済・財政	サル大統領表敬

		大臣	
3月2-5日	スイス(ジュネーブ)	ブーアイダ外務・協力大臣付特命大臣	国連人権理事会ハイレベル会合、国連軍縮会議ハイレベル会合
3月5日	ニジェール	タルビ・アラミ衆議院議長	ニジェール国民議会開会式で演説
3月9日	エジプト	ブーアイダ外務・協力大臣付特命大臣	アラブ連盟第143回閣僚評議会
3月10-12日	ケニア	ビアディアラ参議院議長	ケニヤッタ大統領と会談
3月11日	アルジェリア	ハッサド内務大臣	アラブ内務大臣評議会
3月25日	英国	メズアール外務・協力大臣	ハモンド外相と会談
3月28日～ 4月1日	ベトナム	タルビ・アラミ衆議院議長、ビアディアラ参議院議長	列国議会同盟(IPU)第132回総会関連会合(アラブ・イスラム地域グループ)
3月28-29日	エジプト(シャルム・エル・シェイク)	ベンキラン首相、メズアール外務・協力大臣	第26回アラブ連盟首脳会合、エルシーシー大統領と会談、潘基文国連事務総長と会談

<外国要人のモロッコ訪問>

日付	国	氏名・肩書き	目的
3月2-5日	トルコ	クルトウルムス副首相	トルコ文化デー行事参加、ベンキラン首相表敬
3月5-7日	国連	レオン・リビア担当事務総長特別代表	対立両議会間交渉、メズアール外務・協力大臣、ブーアイダ外務・協力大臣付特命大臣と会談
3月9-10日	フランス	ファビウス外相	モハメッド6世国王謁見、ベンキラン首相表敬、メズアール外務・協力大臣と会談、2015年仏・モロッコ文化交流開会
3月10-12日	ヨルダン	アブドゥッラー2世国王同妃	公式実務訪問

3月12日	サウジアラビア	モハメッド・ビン・ナイエフ 第2皇太子・第2副首相兼 内務大臣	ムーレイ・ラシッド王子、 ハッサド内務大臣と会談
3月16日	ノルウェー	ブレント外相	ビアディラ参議院議長と 会談
3月17日	ア首連	シェイク・モハメッド・ベン・ ザイエド・アンナヒヤン ア ブダビ皇太子	モハメッド6世国王と会談 21の協力協定等署名式
3月25-26日	オランダ	アッシャー副首相兼社会 問題・雇用相	ベンキラン首相、ビアディ ラ参議院議長と会談
3月25-28日	ベルギー	ジャンボン副首相兼内務 治安担当相	ベンキラン首相、ハッサド 内務大臣、ドライス内務担 当大臣と会談

(了)